

結果の概要

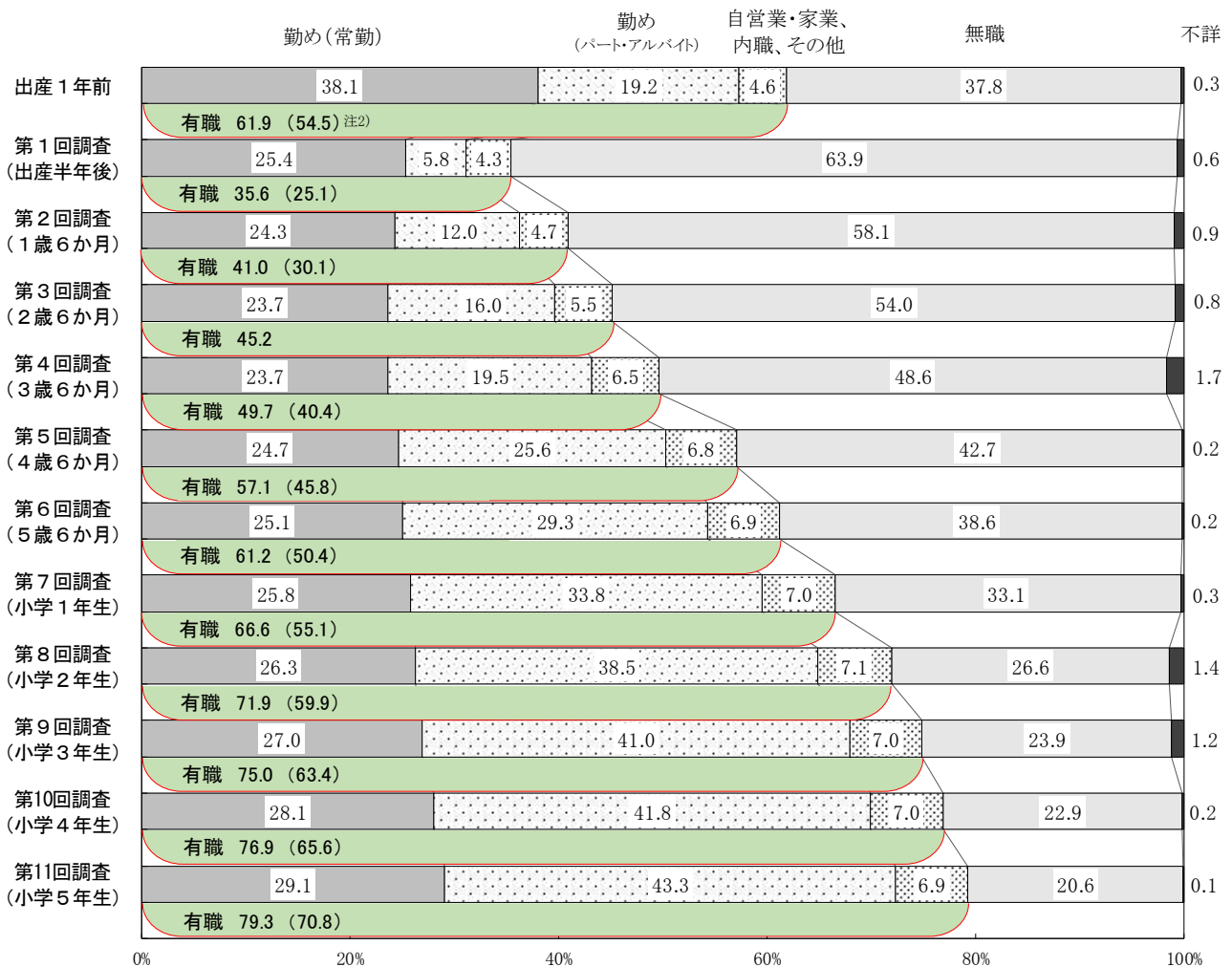
1 母の就業状況の変化

母が有職の割合は第11回調査（小学5年生）で79.3%となり、平成13年出生児（第11回）の70.8%に比べて8.5ポイント高い

母が有職の割合は、出産1年前の61.9%が第1回調査（出産半年後）で35.6%に低下したが、その後は年々上昇し、第11回調査（小学5年生）では79.3%となり、平成13年出生児（第11回）の70.8%に比べて8.5ポイント高くなっている。

母の就業状況の変化をみると、「勤め（常勤）」の割合は、第4回調査（3歳6か月）の23.7%から第11回調査（小学5年生）の29.1%までゆるやかな上昇傾向であり、「勤め（パート・アルバイト）」の割合は、第1回調査（出産半年後）の5.8%から年々上昇し、第11回調査（小学5年生）では43.3%となっている。（図1）

図1 母の就業状況の変化・世代間比較



注：1) 平成22年出生児の第1回調査から第11回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（総数 18,220）を集計。

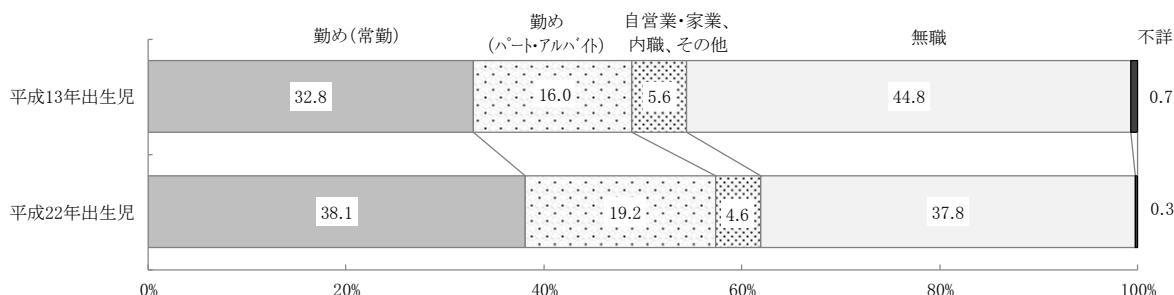
2) ()内の数値は、平成13年出生児の第1回調査から第11回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（総数 28,235）を集計したものである。なお、平成13年出生児の第3回調査では母の就業状況を調査していない。

出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」の母のうち、第1回調査から第11回調査まで継続して「勤め（常勤）」の母の割合は、平成22年出生児では35.4%で、平成13年出生児の25.2%に比べて10.2ポイント高い

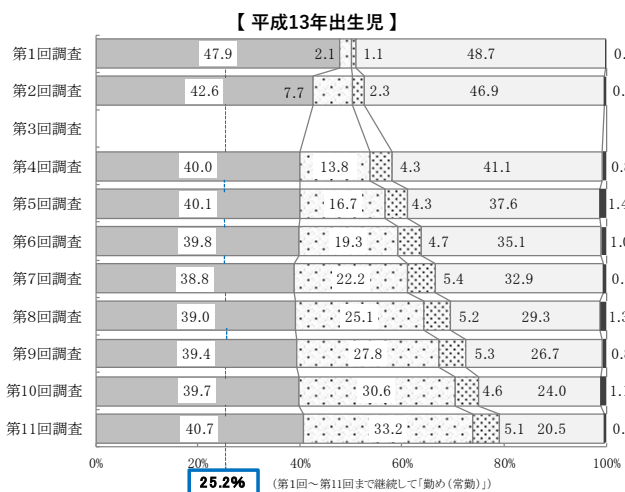
出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」の母について、第1回調査から第11回調査までの就業状況の変化をみると、平成22年出生児の各回における「勤め（常勤）」の母の割合は平成13年出生児よりも高い割合で推移し、さらに、第1回調査から第11回調査まで継続して「勤め（常勤）」の母の割合は平成22年出生児では35.4%で、平成13年出生児の25.2%に比べて10.2ポイント高くなっている（図2）。

図2 出産1年前の就業状況別にみた母の就業状況の変化・世代間比較

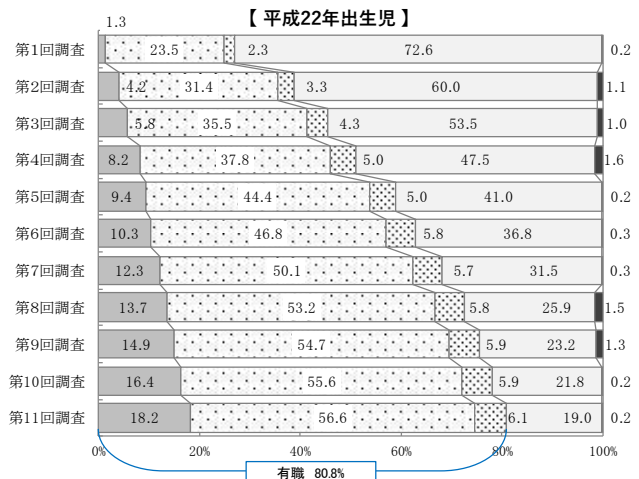
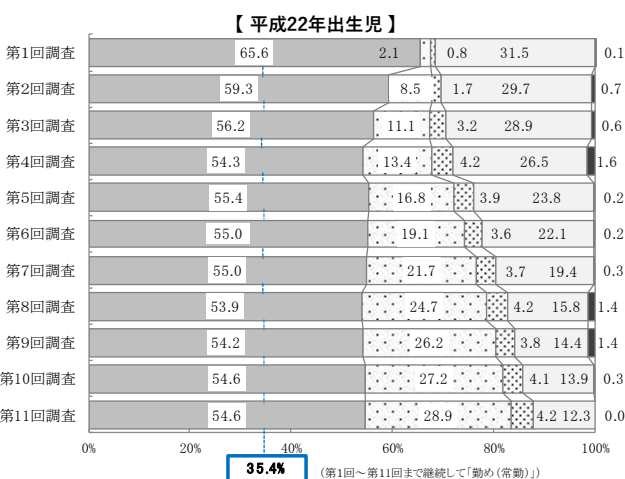
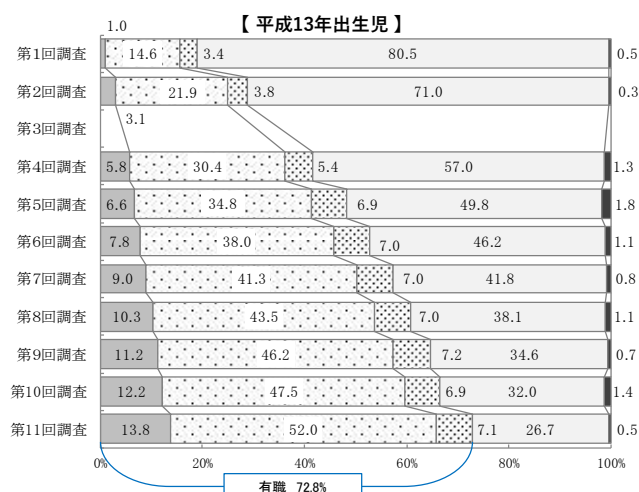
(1) 出産1年前の母の就業状況



(2) 出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」の母の就業状況の変化



(3) 出産1年前の就業状況が「勤め（パート・アルバイト）」の母の就業状況の変化



注：第1回調査から第11回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（平成13年出生児総数28,235、出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」9,264、「勤め（パート・アルバイト）」4,525、平成22年出生児総数18,220、出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」6,948、「勤め（パート・アルバイト）」3,491）を集計。なお、平成13年出生児の第3回調査では母の就業状況を調査していない。